

花あっちこっち

ギボウシ (擬宝珠)

花ことば：由来



ギボウシは、ユリ科リュウゼツラン亜科ギボウシ属で、東アジア全般に自生する多年草。日本では、古くから鑑賞用の植物として栽培され、江戸時代から園芸品種が作られてきた。江戸時代後期にドイツ人の博物学者シーボルトによって欧米に紹介され、世界中に広まったと云われる。

海岸近くの低地から亜高山帯、湿原から岸壁まで生育環境も多様。夏季になると棒状の芯が伸びて、白や紫色の可憐な花を咲かせる。更に葉の周りには、白い縁取りが施されていて緑色との色調が美しい。

ギボウシの謂れとしては、橋の柱の頭部についている宝珠形の装飾に、花の姿が似ていることから名付けられたといわれる。

耳寄り情報

にほんご・せや

代表：岡部 修 ☎ 045-302-2534

私達は地域のボランティアにより運営されている、外国人のための日本語教室です。「せやまる・ふれあい館」で、毎週火曜日の夜7時から8時30分まで一時間半、世界の人々と国際交流を深めています。

生徒さんは、欧州、豪州、アフリカ、東南アジア等の国々から来日し、企業に就労している人、交換留学生、介護福祉士（国家資格）を目指す人達が現在約15名、そして指導にあたる市民ボランティアの先生方がワンツウマン形式で授業をしています。ほとんどの生徒さん達は昼間は就労し、仕事上がりに疲れた身体で教室を訪れ、日本語の上達を志すガンバリ屋さん達です。

私達もまた生徒さん達からガンバリパワーをもらいながら国際交流を楽しんでいます。



まちかど

あの町この町 ⑱ 相沢 (あいざわ)

相沢という町名は、地元の要望により字名を採ったもので、一丁目から七丁目までの七つの町に分かれている。相沢一・二・三・四丁目は昭和60年、相沢五・六・七丁目は昭和61年に瀬谷町から新設された。

この区域の南側には、東西に相鉄線が通り、瀬谷駅の北口がある中央では、地域拠点としての駅前にはふさわしい街づくりに向けて、再開発事業がすすめられている。

相沢五丁目から隣の中屋敷三丁目にかけては、大雨の時に雨水を一時貯留して、相沢川の浸水被害を防ぐために造られた相沢雨水調整池があり、普段はゲートボールやテニスなどを楽しんでいる。

また、相沢三丁目には、源頼朝が治承4年(1180)10月6日鎌倉入り前夜の一夜泊したと伝えられている諏訪社があり、歴史の深さを物語っている。



古い歴史を持つ諏訪社